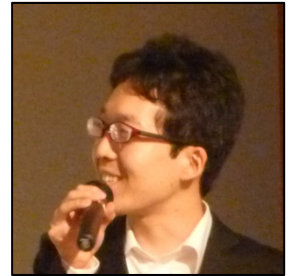


## 松江地区学生防犯ボランティアネットワーク（島根県）

皆さん、こんにちは。松江地区学生防犯ボランティアネットワークです。私は、代表を務めている島根大学法文学部の作野と申します。よろしくお願いいたします。そして、アシスタントを務めるのが総合理工学部の工藤です。



### 活動地域と団体概要

私たちが活動している島根県松江市は県内の東に位置しています。松江市には、松江城、宍道湖、そして大橋川が流れており、水の都と言われる、風光明媚なまちです。平成 17 年には松江市で松江開府 400 年ということで、5年間にわたって松江城を中心としてさまざまなイベントが行われて、大変賑わいました。



**団体概要**  
松江地区学生防犯ボランティアネットワーク

結成:平成21年10月  
代表者:作野佑希也  
(島根大学法文学部4年)  
メンバー数:約170名

平成21年秋に、警察庁による、「若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業」の対象となり、今まで松江警察署より委嘱を受けて活動していた「地域安全協力員」「子ども安全支援員」を包含して設立。  
不定期に島根大学松江キャンパス周辺で活動中。

私たち松江地区学生防犯ボランティアネットワークは、結成したのが平成 21 年 10 月です。そのときに警察庁による「若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業」という事業の対象になり、今まで松江警察署から個別に委嘱を受けて活動していた「地域安全協力員」と「子ども安全支援員」という2つの団体を包含するかたちで設立しました。不定期ではありますが、島根大学松江キャンパスの周辺で活動しています。現在、登録しているメンバーは、だいたい 170 名くらいいます。

我々の活動目的ですが、2点あると思っています。

1点目が防犯への意識を高めることによって、メンバー自身が犯罪に遭わないようにするという事です。島根県は一般的に治安のよい地域だと言われます。しかしながら、数年前には県内西部の浜田市で女子大学生が殺害されるという事件が発生しています。まずは自分自身が犯罪に遭わないようにするのが大事ではないかと考えています。

2点目、地域での犯罪を未然に防ぐというのがあります。これは後で紹介するさまざまな活動を通して、松江を安全で安心なまちにしていこうということです。

### 活動の内容

具体的な活動として、大学周辺の安全安心確保活動があります。交番の警察官、地域のボランティアの方、学校の教職員などと合同で夜間防犯パトロールを行っています。それから、これは不定期になりますが、子どもたちの下校時間に合わせて、見守り活動も行っています。また、防犯キャンペーンへの参加があります。これは大学周辺あるいはスーパーなどで、そのときどきに多発している犯罪への注意を喚起するという事で、チラシやティッシュなどを配布しています。これは大学内で行ったものですが、

このときは鍵かけをしてもらおうということで活動しました。島根県は治安が良い地域ですので、比較的鍵をかけないで外出したりする方が多いです。そのため注意を呼びかけました。

続いて、「暗いとこ調査」というのを行いました。これは大学周辺で暗い場所など、防犯上問題のある場所を明らかにするという目的で行いました。具体的なチェック項目としては、暗い場所、防犯灯がある場所、「子ども110番の家」がある場所、犯罪が多く発生している場所、学生が多く通行している道路、そういったところをチェックしてまわりました。そして、その「暗いとこ調査」で得た情報をマップにまとめました。このように実際に地図に落とすことによってどの辺りで

犯罪が起きやすいのかを明らかにしました。その結果を行政や警察にご報告したところ、大学の周辺に新たに5台の防犯カメラが設置される運びとなりました。これは実際に設置されている様子です。設置したことによって治安の向上に役立ったのではないかと考えています。

続いて、女性・子どもの安全安心確保活動を行いました。具体的な活動としては、「ガールズセーフティブック」という防犯ハンドブックを作成しました。これは警察の求めに応じて我々が協力したかたちになります。一般的にこういった防犯のハンドブックは主に行政や警察が作るもので、その内容は一般に堅いものになりがちで、あまり学生や若い人たちには読んでもらえないような内容だと思います。そこで、私たちがアイデアを出して、若い女子学生に受けるようなかたちで、かわいらしいデザインを取り入れたりして、いろいろと工夫しました。この写真は島根県警察本部長に報告を行っている様子です。



続いて、「地域安全マップづくり」を行いました。「入りやすく・見えにくい」ような防犯上問題のある点を小学生の子どもたちにわかってもらうという目的で行ったものです。このマップづくりにあたって我々大学生も素人ではいけないということで、実際に開発者である立正大学の小宮教授に大学までお越しいただいて、講演会と実地研修を行い、知識を得た上で活動に参加しました。

これが実際に行っている様子ですが、当日は子どもたちや地域の方、保護者の方、ボランティアの方、教職員の方、たくさんの方のご参加があり、一緒に子どもたちと「地域安全マップ」を作ることができました。

調べた内容は小学生が自分たちの手でまとめて、最後は地域に向けて発表会を行いました。これが



完成したマップで、訪問したこの小学校では「地域安全マップづくり」を毎年行っているそうですが、例年よりもいいものが出来たと、褒めていただきました。

★地域安全マップづくり  
「入りやすく、見えにくい」をキーワードに  
小学生といっしょにまちを歩く  
マップづくりに先立って・・・  
★立正大学小宮教授講演会 & 実地研修



子どもたちや地域の方といっしょにまちを歩いて、危険な場所がないかチェック



調べた内容を地図にまとめる



子どもたちが自分で発表




マップ完成！





続いて、その他の活動として広報活動を行いました。私たちはテレビ出演も果たしました。ローカルのテレビですが、自分たちの活動を県下の方にお知らせすることができたと考えています。


それから防犯 DVD 作成協力があります。子どもたちに万引きをしてほしくないという思いで、万引き防止を訴える DVD を作成しました。この DVD に私たちが出演して、ドラマ仕立てで、小学生のみんなにもわかりやすいように作りました。

その DVD ですが、子どもたちに親しみを持ってもらうために、地元で活躍されているシンガーソングライターの六子(ロコ)さんにご協力をいただいて、楽しい内容に仕上げました。そして、その DVD を活用して万引き防止教室を開催しました。大学の周辺にある小学校で開催しました。警察官が行う指導の前に、私たちが少しお時間をいただいて、前座というかたちで万引き防止を子どもたちに訴えました。訴える際

★防犯DVD(万引き防止)作成協力



子どもの万引きを防止するためのドラマ仕立てのDVD



撮影風景

★万引き防止教室 in川津小学校

小学校で、DVDを使った万引き防止教室を担当



は、子どもたちにわかりやすいように、○×クイズなどのゲームなども取り入れて、親しみやすい内容にしました。これが実際に活動を行っている様子です。

また、防犯 CM の作成にも協力しました。この防犯 CM は「子ども 110 番の家」についての CM で、子どもたちに何か危険なこと、困ったことがあったら、いつでも「子ども 110 番の家」に駆け込んでということを訴えるために、女性メンバーが出演して協力しました。

そして歳末特別警戒ということで、島根県知事、警察本部長にお越しいただき、私たち大学生と、「いまどうしているのか、それから防犯についてどう考えるのか」を話し合っ、お互い考えを深めることができました。その懇談会が終了したあとは、歳末特別警戒で、全員で大学周辺を夜間にパトロールしました。このことによって改めて地域の問題点を理解することができたと考えています。

それからヤングボランティアサミットに参加しました。これは警察庁の主催で、平成 23 年にあった会議です。全国の学生ボランティア団体の意見交換の場として設置されたもので、東京都内で開催されました。このサミットに私たちの団体も参加しました。例えば、若者の規範意識を高めるにはどうしたらいいのか。そういった問題について、同じ世代が意識を共有できたと考えています。



## 活動の成果

活動の成果として、3点挙げられると思います。1点目は、安全で安心なまちに近づいたというのがあります。島根県はもともと治安のいい地域ではありましたが、近年さらに治安がよくなって、犯罪の認知件数も年々減少しています。これはもちろん警察の方などの努力もありますが、私たちが活動している一定の成果ではないかと考えています。

2点目は、メンバー自身が防犯に対する意識を高めることができたというのがあります。冒頭で、メンバーの数を 170 名ほどとお伝えしたのですが、最初はもっと少なく、100 人もいないくらいだったのですが、それが2年ほどで2倍近くに増えて、学生の防犯に対する意識も高くなってきていると感じました。これも一つの成果ではないかと思えます。

3点目は、若者が防犯活動をすることで、地域に安心を与えられたというのがあります。防犯ボランティア団体というのは近年、高齢化が進んでいて、島根県ではそれが顕著に進んでいます。そのため私たち大学生がこういった防犯活動をすることで、地域に安心感や刺激を与えられたと考えています。

次に、防犯ボランティアを通じて、どんなやりがいがあるかということですが、2点あると考えています。1点目は防犯活動によって安心安全が保たれて、初めて他のさまざまな地域の活動ができるということです。治安が良くないと観光産業などもうまくいきませんので、地域の治安向上がいちばん重要と考え



ています。これもやりがいにつながっていると思います。

2点目は地域の方、警察、行政と交流する機会が多くありましたので、こういった中で「若いのによく頑張っているね。」とか、「頼りにしているよ。」という言葉をかけられると非常にうれしいと感じます。

## 今後の課題

今後の課題は3点あります。まず任意のボランティア団体のため、参加率が低いというのがあります。これはどこの団体にも共通する問題ではないかと思います。我々の団体も参加は完全に任意です。そのため授業やアルバイトがあると、そちらのほうを優先してしまうということがあって、参加率が低調となることがあります。

2点目は、メンバー同士の交流が今のところ少ない状況にあります。そのためSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)やメーリングリストなどをつくって、交流を呼びかける。そういったこともしていきたいと思っています。現在、フェイスブックでの交流を図っているところです。

3点目は、自主的な活動が少ないということです。現在の活動は、多くが警察官の協力を得て行っています。完全に自主的な活動は少ない状況です。今後は、より自主性を持った組織にしていきたいと思っています。そのため組織づくりとして、代表や主要なメンバーだけではなく、全員が参加できるように、組織をもっと細分化するようなかたちで行っていければと思っています。

最後に今後の活動について、私がやりたいと思っている活動は、たとえば地域で行われる防犯訓練などに参加したり、あるいは新入生をもっと勧誘したり、ほかの大学の防犯ボランティア団体との交流をもっと深めたいです。

## 質疑応答

●質問 メンバーはあくまでも任意ということですが、今のグループは、学校で何々をしているクラブの人たちの同僚とかというのではなくて、全く別の部門の仲間同士が集まった活動であるということですか。

○回答 基本的には全学を対象に勧誘をしていますので、構成員の所属もばらばらです。参加者の多くは、大学が主催する公務員講座に参加し、そこで勧誘を行っているので公務員志望の学生が比較的多いかなと思います。

●質問 活動の中で、週何回というようなかたちで、全体でそろってやることが多いのですか。それとも、それぞれアルバイトに行かれる方も多いということで、2～3人であっても、可能な活動に参加をしていくということですか。

○回答 定期的に行う活動はありません。基本的には、都合のつく日にそれぞれ何人かが活動に参加するかたちになっています。

●質問 都市部には大学がありますが、郡部にはありません。大学生との連携をやりたくてもできないのですが。私たち年寄りが応援を頼む場合、どうかたちですればできるのかなと思うのですが。

○回答 大学を始めとする学校がある場所と、そうでない場所というのは、どうしても学生の参加が違ってくると考えています。大学のない地域であっても、たとえば警察とか行政の支援などがあって、定期的にその場所までの交通手段を確保するといったかたちで参加することは可能なのかなと考えています。